

ラクトフェリン含有健康補助食品の歯科臨床応用について第二報：

ラクパッチ（貼薬）の効果

Dental clinical application of lactoferrin-containing dietary supplement report 2 :

effect of lacpatch(patch type)

○川崎 智之, 荻原 道, 川端 秀男, 奥寺 元

○KAWASAKI T, OGIWARA O, KAWABATA H, OKUDERA H

東京形成歯科研究会

Tokyo plastic dental society

I 目的： 歯周病とインプラント周囲炎その他の炎症に対する口腔内の臨床の改善は、今まで術者による症状軽減の処置や対症療法として抗生物質の薬剤やはたまた、口腔内改善のブラッシングが主体であった。我々は 1 報でチュアブルタイプのラクトフェリンの効果について報告したが、本研究では患部に貼付するタイプのラクパッチの炎症を抑える効果についてさらに検討した。数々の症状を持つ患者の同意を受けて処方し結果を集計した。

II 材料と方法： ラクパッチ (LF-P) には、主成分のラクトフェリン (30 mg配合) にペクチン・ショ糖脂肪酸エステルなど口腔内の炎症部位に貼付する成分が配合されている。調査期間は 2013 年 6 月～9 月で、被験者に LF-P を 1 日 2～3 錠使用してもらい口臭の原因症状 (歯周病・口内炎・舌苔) の口腔内観察, VSC (揮発性硫黄化合物) による口臭の検査そして口腔環境の自覚症状を調査した。歯周病及びインプラント歯周炎は、出血・腫脹・疼痛を検査評価し、自覚症状を把握するためには Visual Analog Scale(VAS)を用いた。また細菌測定装置による舌苔の菌数測定を実施した。

III 結果： 臨床データを回収し、調査項目がすべて記載された資料 8 部を集計し分析・評価し使用製品ごとに集計した。・LF-P (8 名) : 症状については出血・腫脹・疼痛に改善が見られたが、舌苔に関しては効果が見られなかった。口臭についても、口腔・吸気とも改善は見られなかった。VAS による自覚症状についても、ベタベタ感を除き同様の結果が確認された。

IV 考察と結論： LF-P は、チュアブルと同様に、インプラントによる出血・腫脹・疼痛の改善傾向を示した。同様に被験者の自覚症状の改善傾向が確認された。しかし症状とラクトフェリン含有濃度の関係か口臭については、明らかな改善は認められなかった。以上の結果から、インプラントによる出血・腫脹・疼痛に対して、直接患部にアタックできるラクトフェリンラクパッチは患部の臨床応用の選択肢の 1 つとして有望なサプリメントであることが示唆された。今回は 8 名と少人数における使用経験であるため、今後はより多数の被験者での使用成績を評価する必要があると考えられる。